

第 13 期
令和 7 (2025) 年度
事業報告書

令和 7 (2025) 年 4 月 1 日から
令和 8 (2026) 年 3 月 31 日まで

公益財団法人 日本数学検定協会
The Mathematics Certification Institute of Japan
<http://www.su-gaku.net/>

令和7（2025）年度 事業報告

目 次

総合報告

- I 数学に関する技能検定の実施、技能度の顕彰及びその証明書の発行
- II ビジネスにおける数学の検定及び研修等の実施
- III 数学に関する出版物の刊行及び情報の提供
- IV 数学の普及啓発に関する事業
- V 数学や学習数学に関する学術研究
- VI その他この法人の目的を達成するために必要な事業
(関係諸団体との情報交換及び連携)

【外部環境】

令和7（2025）年度、日本の景気は、内需主導による緩やかな回復が見られた一方で、円安や原油高などの影響により物価高がマイナス要因となり、生活環境の厳しさが浮き彫りとなりました。また少子化に歯止めがかからないなか、財政や政治に対する不安が続くなど混とんとした状況下において、賃上げが大きな焦点となりました。雇用の約7割を担う中小企業にとっては、極めてかじ取りの難しい1年であったと考えます。

公立学校においては引き続き教員の働き方改革が推進されており、休日や放課後に関しては教員の協力を得ることが一層困難な状況となっています。そのような状況下で、教育産業界にも目を向けてみると、学習塾においても人材不足が指摘されているほか、少子化の影響や大学受験の変化により、個人塾のみならず中堅規模の学習塾においても経営が厳しさを増しています。

こうした状況のなかにあっても、「数理・データサイエンス・AI教育（MDASH）」への需要は高まりを見せており、当協会に対しても理数系人材の育成に関する相談が増えています。

【当協会の基本方針】

当協会の目的は、「信頼性と有用性が高く、学習指針として広く認められる数学に関する検定事業を実施し、得られた知見を社会に還元することを通じて、世界中の人々の生涯にわたる数学への興味喚起と数学力の向上に貢献する」ことです。

【令和7（2025）年度の各事業】

令和7（2025）年度は公益財団法人として第13期めの事業年度となりました。

「実用数学技能検定」（以下「数検」）は国内の年間志願者数の累計が前年度より約7,000人減のべ27万8,625人となりました。一方で日本人学校、補習校を除く海外の受検状況は年々増加しており、6,982人の志願者を獲得することができました。

ビジネス数学関連事業としては中期経営計画（3か年）で掲げてきた「人財育成プロデューサー事業者」として、「ビジネス数学検定」や「データサイエンス数学ストラテジスト資格試験」を中核にした提案ができるようになりました。具体的には、福島県教育委員会、あるいは北海道教育委員会と連携し、数学リテラシーの向上およびデータサイエンス人材育成に関するセミナーを開催し、多くの教育関係者から高い評価を得ることができました。

出版事業に関しては、在庫数が前年度より増え、約12万2,000部となり、書籍を購入したもののまだ受検にいたっていない方が潜在的にいらっしゃると考えられます。

普及啓発事業としては、これまでの算数のイベントを軸にして連携の幅が広がり、とくに石巻専修大学とは算数・数学力向上の共同研究や地域社会の活性化を目的とした連携協定を締結することができました。また、大人のための数学講座への需要が高まっています。

学術研究関連として、引き続き社会と数学との結びつきについて研究することができました。また、紀要発行に向けた論文提供者も増え、今後の広がりに向けてさらに検討を進めてまいります。

I 数学に関する技能検定の実施、技能度の顕彰及びその証明書の発行

この事業の公益性は、すべての国民が学んでいる数学という学問で、学習指標としての検定を全国津々浦々で実施し、年齢・学歴を問わずありとあらゆる人たちが自由に参加し、学習成果を評価・表彰する生涯学習の場を提供できるという点にある。

令和7（2025）年4月から令和8（2026）年3月までの数検（かず・かたち検定含む）の志願者ののべ総数は、国内が27万8,625人、海外（日本人学校、補習校を除く）については6,982人となり、合計で28万5,607人となりました。国内だけで比べると前年度より6,906人の減少となっています。

令和7（2025）年度「実用数学技能検定」階級別志願者数

	1級	準1級	2級	準2級	3級	4級	5級		
志願者数	2,222	6,946	22,871	39,940	67,375	28,996	26,849		

	6級	7級	8級	9級	10級	11級	ゴールド スター	シルバー スター	合計（人）
志願者数	16,377	15,388	15,380	14,851	13,758	11,396	2,160	1,098	285,607

教員の働き方改革の影響で学校での団体受検の実施が困難になることに鑑み、その解決策としてすすめてきた個人受検B日程受検は、前年度と比べて17,037人増の63,084人となりました。その結果、団体受検の割合は65.4%、個人受検B日程が22.6%（個人受検A日程は12.0%）となり、前年度と比べると個人受検B日程が6.5ポイント増えたことになります。

つづいて階級ごとの志願者数は、1級、準1級、2級の上位3階級については増加となりました。数検の2級以上を取得した場合、文部科学省の行う「高等学校卒業程度認定試験」の必須科目「数学」が試験免除されますが、大学への推薦入試や附属高校からの内部進学などで2級以上と基準を定める事例が増えており、その結果として上位階級の志願者増につながったのではないかと分析しています。

階級ごとの受検者数に対する合格率については、まず1級の合格率が前年度は13.1%だったものが今年度は9.4%と若干合格率が下がりましたが、これまでの1級の合格率は10%前後であり、受検者数を考慮すればとくに大きな変化ではないと考えられます。そのほかの階級では大きな変化はありませんでした。

年間の受検団体および合格者の中から優秀な方々を表彰する「実用数学技能検定『数検』グランプリ」については、令和6（2024）年度分の受賞者・団体を決定し、令和7（2025）年8月4日に、文部科学省から担当官をお招きし、表彰式（会場＝アルカディア市ヶ谷）を執り行いました。

表彰数はずぎのとおりです。

2024年度「実用数学技能検定『数検』グランプリ」受賞者・団体数内訳

賞	表彰数
文部科学大臣賞（団体）	6団体
文部科学大臣賞（個人）	5人
「数検」グランプリ金賞（団体）	16団体
「数検」グランプリ金賞（個人）	20人
「数検」グランプリ会長賞	6組10人
生涯学習功労賞	36人

II ビジネスにおける数学の検定及び研修等の実施

この事業の公益性は、公教育では伝えきれなかった社会や企業と数学の接点を明らかにしつつ、実社会における数学的リテラシーの向上につなげ、その有用性について認知を促すことによって、効率的な情報交換を行えるような人材育成につなげるという点にある。

2025年度 ビジネス数学関連利用者数（2024年度との比較）

	講座・研修※	検定	e-learning	合計
2025年度	831人	2,588人	606人	4,025人
2024年度	840人	2,498人	612人	3,950人
増減	▲9人	90人	▲6人	75人

※研修には、企業向けを含まない。

ビジネス数学関連利用者数は大きな変化はなかったものの昇進試験への活用を検討しているプライム上場企業の事例や、大学での新たな活用事例が加わるなど、今後の広まりが期待できます。

また、2023年度からの中期経営計画にもとづき、福島県いわき市をはじめとする自治体や大学関係者との連携事業として、データサイエンス人材育成に関するセミナーが開催されたことも特筆すべき点です。セミナーについては以下をご覧ください。

データサイエンス人材育成に関するセミナー開催状況

●2025年6月24日	主催＝すららネット	申込人数 41人
「数学的リテラシーの向上で社会で活躍する人材を育てる～学びの社会実装～」		
●2025年8月18日	共催＝福島県教育委員会	申込人数 31人
「学びの社会実装により社会で活躍する人材を育成する ～『データサイエンスの必修化』と『学びの社会実装』～」		
●2025年8月20日	主催＝北海道教育委員会	申込人数 90人
「高大社で考える学びの社会実装により社会で活躍する人材を育成する ～『データサイエンスの必修化』と『学びの社会実装』～」		
●2026年3月24日	主催＝当協会	申込人数 253人
「社会実装におけるデータサイエンスに必要なデータ活用リテラシー」		

そのほか、ビジネス数学検定の英語版 CBOMS (Certificate for Business Oriented Mathematics Skills) を公開し、世界を見据えた体制が整いました。

ビジネス数学から派生させ、「数理・データサイエンス・AI」関連の数学に特化した事業である「データサイエンス数学ストラテジスト資格試験」（2021年9月から開始）には496人が受験しました。また、「データサイエンス×数学」の学びの充実に向けたe-learningのコンテンツを、大学機関と連携して開発いたしました。

III 数学に関する出版物の刊行及び情報の提供

この事業の公益性は、数学の学習者はもとより広く一般の人たちに、学習材や情報誌あるいはネットを用いて学習情報を提供し、学習経験者のさまざまな声を、新たな学習活動を起こそうとする方々に届けて生涯学習の輪を広げていこうとする点にある。

令和7（2025）年度は、当協会から「過去問題」シリーズの準1級、「文章題練習帳」シリーズ3、4、5級の4種類の書籍を発行しました。また「文章題練習帳」シリーズ6、7、8の発行をめざして編集作業を進めました。

2025年度協会発行書籍の出庫数

シリーズ名	4月	5月	6月	7月	8月	9月
要点整理	3,288	1,178	1,915	3,982	1,270	3,546
過去問題集	5,420	2,593	5,853	9,997	3,404	10,019
記述式演習帳/文章題練習帳/文章題入門帳	336	304	99	666	401	623
親子ではじめよう	1,626	629	1,205	2,549	646	1,494
発見	261	71	101	394	106	231
2025年度実績（合計）	10,931	4,775	9,173	17,588	5,827	15,913
2024年度実績（合計）	6,792	5,828	7,995	17,993	4,175	13,025

シリーズ名	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要点整理	1,242	1,039	2,556	1,735	5,823	2,899	30,473
過去問題集	2,931	3,643	6,933	5,815	6,216	5,361	68,185
記述式演習帳/文章題練習帳/文章題入門帳	280	256	695	404	519	426	5,009
親子ではじめよう	662	1,252	1,852	2,234	1,291	1,008	16,448
発見	57	76	189	125	273	250	2,134
2025年度実績（合計）	5,172	6,266	12,225	10,313	14,122	9,944	122,249
2024年度実績（合計）	8,039	10,130	13,331	10,987	12,787	10,405	121,487

次に他社からの数検関連書籍については、株式会社ユーキャンから「ユーキャンの数学検定ステップアップ問題集」シリーズの準1級と2級が発行されたほか、東京図書株式会社から「改訂版 合格ナビ！数学検定準1級」が発行されました。また、要望の多かった1級関連書籍として、森北出版から「数学検定1級準拠テキスト」シリーズの応用数学分野をまとめた書籍が発行され、1級受験希望者から好評を得ることができました。そのほか、書籍ではありませんが、イマジニア株式会社からはNintendo Switchソフト「算数検定スマート対策＋数学検定」が発売され、こちらにも多くの反響がありました。

出版関連以外の「情報の提供」については、当協会の経営戦略部にPRグループを新たに立ち上げ、PR活動に向けた情報発信体制を整えました。その一環としてまずはウェブサイトおよびSNSのインプレッション数100万回達成に向けたアクションを行い、毎月安定的に100万回前後のインプレッション数になりました。またSNSのフォロワー獲得の強化策としてInstagramの充実を図ってきましたが、2026年3月時点で2,000人を突破することができました。

今後は数検受験者だけでなく、受験者を応援する方や数学に少しでも興味をもっている方のエンゲージメントを高め、双方向のやり取りができるようにしていく必要があります。その体制強化を図ってまいります。

IV 数学の普及啓発に関する事業

この事業の公益性は、不特定多数の人が参加できるイベントで、いくつかの共通の課題やテーマを通して、子どもと大人が一緒になって楽しみ生涯学習の実践と評価をうけながら普及啓発活動をしていく点にある。

令和7（2025）年度は、令和5（2023）年度から開始した中期経営計画の最終年度となります。そのテーマは「検定事業者から人財育成プロデューサー事業者への変革」であり、多くの事業に取り組んできました。そのなかで数学の普及啓発に関する事業については、生涯学習という観点から学びの機会を幅広い世代に提供し、数学への興味関心を高めていただく活動が重要になります。

スポーツと数学を結びつけて新たなコンテンツを創るという活動は、これまでにない視点であり、令和6（2024）年度から共同研究を開始した日本福祉大学とは、継続して「スポーツ×数学」のコンテンツ開発に向けた活動を行うことができました。また、令和7（2025）年度は石巻専修大学と連携協定を締結し、小学生に対して「算数トライアスロン」と称する「算数×パズル」イベントを開催し、地元の新聞社とも協力関係を構築しながら地域の算数力向上プログラムを実施することができました。

東大寺（奈良県）の算額奉納事業については、前年度から始めたコンクール形式による問題募集の規模が広がり、150点を超える問題が集まりました。その中から奈良市の小学生からの優秀な作品2点を算額として東大寺に奉納することができました。

新たな試みとしてチロルチョコ株式会社と連携して行った、中学校、高等学校での探究学習プログラムがあげられます。

本企画に賛同いただいたのは、東京都内の芝国際中学校・高等学校(旧東京女子学園高等学校)と麴町学園女子高等学校の2校です。『1粒100円の新たなチロルチョコを提案してみよう!』という探究的な学習プログラムを両校で2025年11月から実施していただきました。この学習プログラムでは、実際のチロルチョコを題材に、生徒のみなさんに「価値を創造するアイデアの考案」「マーケティング戦略の立案」「開発した商品の提案」までを行っていただき、社会で役立つ、より実践的な探究活動を体験していただきました。

そのほか、全国各地の教育委員会やコミュニティスクールなどとのタイアップイベントを行い、とくに大人や子どもを対象とした講習会などについては参加希望者が多く、抽選を行いながら以下のとおり開催しました。

2025年度 講習会の開催日と受講者数

開催日	受講者数		開催場所
9月21日	親子	33組66人	亀有地区センター（東京都）

9月29日	親子	28組56人	ウィメンズパル（東京都）
10月5日	小学生	37人	堀切地区センター（東京都）
10月5日	小学生	7人	堀切地区センター（東京都）
10月5日	中学生	1人	堀切地区センター（東京都）
11月8・9日	多世代	390人	科学技術館（東京都）
11月16日	大人	40人	滝野川文化センター（東京都）
12月20日	小学生	20人	横浜市立永谷小学校（神奈川県）
2026年			
1月17日	小学生	50人	東京都立立川国際中等教育学校 附属小学校（東京都）
1月18日	小学生	43人	ウィメンズパル（東京都）
1月18日	小学生	16人	ウィメンズパル（東京都）
1月18日	中学生	3人	ウィメンズパル（東京都）
1月27日	小学生	30人	足立区立血沼小学校（東京都）
2月1日	大人	28人	金町地区センター（東京都）
2月22日	小学生	19人	大宮図書館（埼玉県）
2月22日	大人	24人	金町地区センター（東京都）

V 数学や学習数学に関する学術研究

この事業の公益性は、時代の変化に合わせた学習の流行性と普遍的な数学の価値を結びつけ、数学を学習する意義の定着を目指すとともに、数学を学習するための環境を整えていく点にある。

数検の問題研究や採点状況による受検者の分析などから得られた知見をとおして、以下の研究事業を行いました。

- ・ 数学教員のための情報サイト「SAME」の企画推進
- ・ 学術ネットワーク事業として地域との連携や理数探究授業に関する研究
- ・ DE&I(Diversity,Equity and Inclusion)を軸とした、数学と他分野との連携に関する研究
- ・ そのほか、AIを活用した問題づくりに関する授業案研究
- ・ 数学関連インストラクターやコーチャーとの意見交換など

また、紀要についても数学の活用力などをテーマに論文募集していくことが確認され、新しい体制で進めていくことになりました。

今後も、教員や数学の学習者が抱えている課題とその解決方法を提示するために、情報収集ならびに分析を進め、数学を学ぶ環境整備とその情報を発信する機能を充実させていきます。そして、数学への興味喚起と数学力の向上に寄与していきます。

VI その他この法人の目的を達成するために必要な事業（関係諸団体との情報交換及び連携）

この事業の公益性は、知識層との交流を通して、数学の生涯学習とは何か、数学の学習とは何かなどの疑問に答えながら、生涯学習の概念を拡張していく点にある。

学会・研究会などについては、規模や地域にもよりますが、対面での会合が復活し、このような会に参加することで算数・数学関係者や関係諸団体との交流・情報交換ができるようになりました。

コミュニティスクール（地域学校協働本部を含む）関係として、全国コミュニティスクール連絡協議会に賛助会員として参加し、協議会参加者とも積極的なコミュニケーションを取ることができました。

このほか、各経済団体との情報交換を密に行い、数学の重要性を伝えることができました。